

小学校道徳科における評価についての研究

ー内容項目のまとまりをもとにした評価の在り方ー

教育学研究科 教育実践創成専攻教育実践開発コース 教師力育成分野 中根淳

1. 本報告書の位置づけ

本報告書は小学校道徳科における評価についての継続的研究の2年目の報告である。1年目の研究は小学校低学年において、児童の学習状況を普段の授業で見取るための手立てと工夫について考察し、その有用性の検証を目的とした。結果は報告書「小学校道徳科における評価についての研究ー学習状況と道徳性に係る成長の様子を見取る方法の提案ー」としてまとめた。2年目の研究は内容項目のまとまりをもとにした評価の在り方を目指し研究を進める。

2. 問題と目的

(1)道徳科の評価に対し教師が抱く困難さ

道徳科の評価について小学校学習指導要領では、「児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導の改善に生かすよう努める必要がある」(文部科学省, 2018)と規定されている。また、学習指導要領総則では、道徳科の評価について、「児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること」(文部科学省, 2018)と示されており、他者との比較ではなく児童一人一人のもつよい点や可能性などの多様な側面、進歩の様子などを把握し、年間や学期にわたって児童がどれだけ成長したかという視点を大切にすることが示されている。

しかし、道徳科で養うことをねらいとする道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質である。そのため、一朝一夕に道徳性が養われた否かを判断することは難しい。道徳教育実施状況調査(文部科学省, 2022)によると、道徳科の評価を行う上での課題として、調査を行った

小学校の 55.2%で「児童の学習状況及び道徳性に係る成長の样子の把握」が挙げられており、多くの教師が、内面的資質である道徳性をどのように見取っていけばよいのか、困難さを抱いている現状が伺える。

(2)学習状況の捉え方とその見取り方

道徳性は道徳の授業だけでなく、他の教科も含めた学校教育全体で育てる資質・能力であるとともに、家庭教育の中で育まれる一面もある。そのため、道徳科の授業だけで、児童の道徳性が育まれたかどうかを評価することはできないし、評価することは望ましくない。

毛内(2017)は「道徳に関する児童生徒の評価については、その内面を測ることの難しさから避けがちな傾向がある。しかし、児童生徒の内面に係る評価も、その学習状況などを手掛かりとして積極的に見届けていくように努める必要がある」とし、学習状況を把握し積み上げていくことの重要性を述べている。また、西野(2017)は「道徳科の評価では、道徳性そのものは評価できないが、道徳性を養う学習活動にどのように取り組んでいるか、その学びの姿を捉えることは可能である。学びの姿の成長や進歩を見取ることによって、道徳性の育成に通じる道筋が充実していたかどうかを判断することができる」と指摘している。授業は道徳性を養うために行うが、指導の結果として、道徳性そのものの状態を把握するのではなく、道徳性を養うための学びがどうであったのか、児童の学習状況を把握することが必要であるといえる。

(3)道徳の評価に関するアンケート調査から

2023年11月に県内の小中学校教員に質問紙による調査を依頼し、57名から回答を得た。

質問内容については、日常の道徳科の授業においてどのような方法に重きをおいて児童の学習状況を見取っているか。またその方法で児童の学習状況を見取る際の良さと課題点について考えていることを記述で回答してもらった。

図1に示す通り、道徳科の授業において学習状況を見取る方法として、42%がワークシートの記述に重きを置き、次いで児童の発言やつぶやきからの見取りが35%という結果になった。児童の自己評価については2%となり、自己評価による児童の学習状況の見取りについては、ほとんど活用がされていないことがわかった。

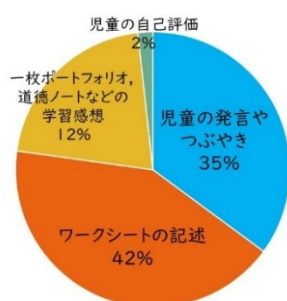


図1 日常の道徳科の授業において学習状況を見取る際に重きを置いている方法の集計結果 (n=57)

学習状況を見取る際の課題点として挙げられた回答を表1に示す。ワークシートから学習状況を見取る際には、「質問と内容がずれてしまい正しい学習の様子が見取れないこと」「無回答になってしまうこと」などが課題として挙げられていた。また、児童の発言やつぶやきによる学習状況の見取りについては、「児童の発言を日常の取り組みの中でどのように記録に残すか」が挙げられていた。普段の授業の中で継続して取り組める学習状況を見取る方法について、多くの先生が課題を抱えている現状が伺える。

表1 学習状況を見取る際の課題点

学習状況を見取る方法	学習状況を見取る際に課題と感ずること
ワークシート	- 何を言っているかわからず空白になってしまう児童がいる。 - 同じと記述の内容が大きくずれている児童は正しい学習の様子が見取れない。 - 書くことに苦手意識のある児童の見取りができない。
児童の発言やつぶやき	- 発言を全て記録することが難しい。 - 発言を記録するには限度がある。 - 発言をしない児童の学習状況は見取れない。

(4)1年目の研究の成果

普段の授業の中で児童の学習状況を見取り蓄積する方法として、1年目はワークシートを用いて記述を蓄積する方法と、エピソード記録シートを活用して児童の発言を蓄積する方法について研究を行った。

ワークシートに記述を蓄積させる手立てとして、児童の考えを記述させる際に、登場人物のイラストに吹き出しをつけ、自己を投影する人物を明確にし、教師の発問の意図が児童に正しく伝わるようにした。また、ワークシートの問いについても、「Aさんの気持ちをかきましよう」ではなく、「あなたがAさんなら、どんなことをお話しするかな」のように、小学校1年生の発達段階に合わせ、口語で記述させるよう工夫することで児童の考えが表出しやすようにした。その結果、問いが明確になり、無回答や発問から大きくずれる記述が減り、記述から児童の学習状況を把握することができた。作成したワークシートを図2に示す。

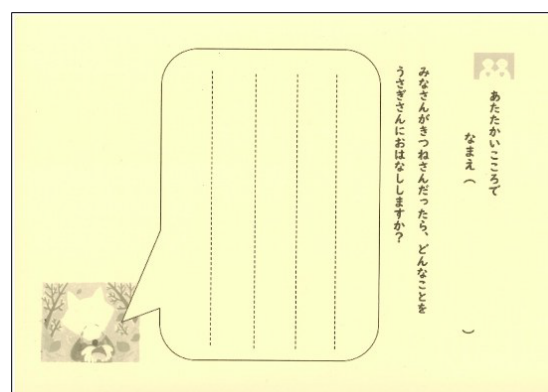


図2 自己投影する人物を明確化するように工夫したワークシート

授業中の児童の発言を記録する方法として、ICレコーダーを用いて授業後にプロトコルを作成したり、座席表を用いて児童の発言を記録したりと研究授業では様々な方法を用いるが、毎回の授業において、授業者が一人でそれらの方法を実施することは難しい。

そこで、授業での児童の発言については、黒板に板書をする際に児童名を合わせて記入するこ

とで発言を記録として残した。さらに、板書の写真は、エピソード記録シートに発展させて蓄積していく。エピソード記録シートは図3に示す通り、授業エピソードと生活エピソードを合わせて記録するために作成したシートである。授業エピソードには、授業中の発言の記録である板書の写真とペアでの学習の様子や、ワークシートの記述の様子など授業内での学びの記録を合わせて残す。生活エピソードについては、授業に関する内容について、学校生活の中での児童の言動の記録を残していく。

板書を活用したエピソード記録シートを作成することで、授業での学びの姿が明確になり、道徳の授業をきっかけとして、日常生活の中で児童の前向きな姿を見取ることにつながった。

エピソード記録シート		
学年	授業日	教材名
視点区分		内容項目
「授業エピソード」 授業中の発言の記録 (板書写真)		
「授業エピソード」 授業内での学びの記録 (つぶやき、ペアでの活動の様子、ワークシートの記述など)		
「生活エピソード」 授業に関する内容について、学校生活の中での児童の言動の記録		

図3 エピソード記録シート

(5)研究の目的

1年目の研究は、研究協力校で授業を実施したため、限られた時間の中での短時間での検証であった。児童の学習状況をワークシートとエピソード記録シートを活用し、記述と発言として蓄積する方法について有用性を見出すことはできたが、長期的に学習状況を蓄積していくなか

で、評価方法の工夫について更なる検証していく必要があった。また、評価方法が教師からの一方的な評価であったため、子ども自身の自己評価につながらなかったという課題があった。

そこで、本研究では、1年目の研究を基にしながら児童の学習状況を普段の授業で見取り、内容項目のまとまりをもとに、学習振り返り評価する活動を通して、児童が自身の成長を見つめ深める実践を試み検証する。

3. 研究の方法

(1)授業実践について

①対象校・児童・実施日・教科書

山梨県公立A小学校 6年生 22名

4月～10月 計14時間

教育出版「小学道徳⑥はばたこう明日へ」

②授業実践の記録

表2 授業実践を行った教材

時	教材名	内容項目
1学期	1 負けずぎらいの心根を持って	A 個性の伸長
	2 人生を変えるのは自分	A 希望と勇気、努力と強い意志
	3 応援団の旗	C よりよい学校生活、集団生活の充実
	4 友達だからこそ	B 友情、信頼
	5 ひきょうだよ	C 公正、公平、社会正義
	6 父の言葉	B 親切、思いやり
	7 米百表	C 伝統と文化の継承、国や郷土を愛する態度
	8 真琴と勇介	B 友情、信頼
	9	ココロタイム
2学期	10 青い海を取りもどせ	C 勤労、公共の精神
	11 自然環境を守るためにできること	D 自然保護
	12 山中伸弥先生の快挙	A 真理の探究
	13 雨あがりの朝に	C 家族愛、家庭生活の充実
	14	ココロタイム

4. 実践の概要

(1) 内容項目のまとまりから学習を振り返り深める活動の設定

道徳の内容項目に関する4つの視点に合わせて、授業で用いるワークシートを4色に色分けした。色は、使用している教科書の視点区分の色分けに準じ「A主として自分自身に関すること」を赤色、「B主として人との関わりに関すること」を黄色、「C主として集団や社会との関わりに関

すること」を青色、「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を緑色とした。ワークシートをポートフォリオとして蓄積したものを児童が振り返りとして活用する際に、内容項目を意識した大くくりなまとまりで、自分の学習を見つめ直すことができるようにする。また、学期に1回、4つの視点区分で色分けし、ポートフォリオとして蓄積したワークシートを、児童が見直す時間（ココロタイム）を設定する。

内容項目のまとまりの中での振り返りから、「道徳的価値の理解に関してどのような成長が見られるのか」「自己を見つめることに関してどのような成長が見られるのか」など児童が自己の成長を見つめ深めることができているか、ワークシートへの記述から捉えることをねらいとした。

(2)児童による生活エピソードの相互記録

エピソード記録シートについては、黒板の板書を活用した授業に関する授業エピソードと合わせて、学校生活の中での児童の言動の記録を残していく。加藤(2017)は「道徳の授業外での子どもたちの変容について、道徳の授業がきっかけとなってよりよく生きようとする前向きな姿が見られたかどうかを見取することは必要である」と述べ、道徳の授業以外の実生活における経験を得た上での育ちを見取ることの重要性を示している。エピソード記録シートを作成することで、児童の学習状況と児童の日常での成長の様子の二つの面を合わせて一枚のシートに蓄積することをねらいとした。

生活エピソードの記録については、教師が児童の生活での言動を見取り、記録をしていたが、今回の研究ではそれに加え、児童が相互に友達の頑張っているところを見つけ、友達の成長発見シートに記録する活動を加えることで、道徳的实践意欲や態度として表れている児童の成長の様子をお互いが見つけることで高めあう活動にすることをねらいとする。

5. 結果と考察

(1)1学期の実践の結果と分析から：児童Aの記述の様子をもとに

①道徳的实践意欲の高まりと教師の見取り

1学期は、表2に示した通り教科書を用いて8時間の授業を行った後に、自分の成長について振り返るココロタイムを9時間目として実施した。1学期のココロタイムでは「B主として人との関わりに関すること」の内容項目について自身の成長について深め振り返るための活動を設定した。

児童Aは4時間目「友達だからこそ」の授業において、主人公に自己を投影して、困っている友達への助言として「しっばいは成功のもとだから一回やってみれば」と友達のことを励ます言葉がけでアドバイスを考えていた。困っている友達をすぐに助けてしまうことが思いやりではないという道徳的価値を、主人公に自分を投影し見出していた。児童Aのワークシートを図4に示す。

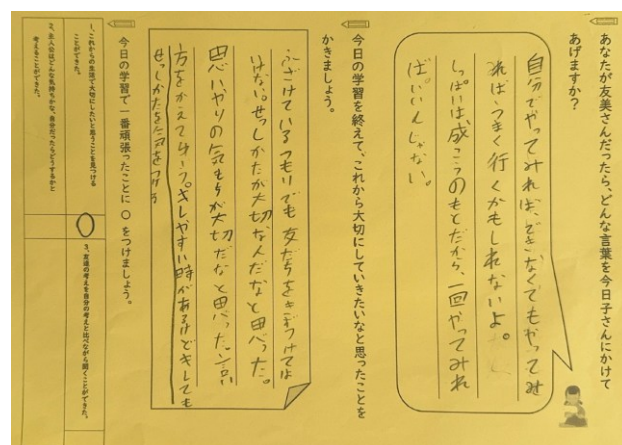


図4 授業4時間目の児童Aのワークシート

4時間目の授業終了後にエピソード記録シート（図5）を作成したが、その中で、児童Aが算数の課題解決に困っている友達に「1回やってみたら。それでもできなかったら手伝うよ。」とアドバイスしている様子を教師が見取っている。

授業で見出した価値について、意欲を持ち行動に移す児童Aの成長した姿を、エピソード記録シートを作成したことで見取ることができた。

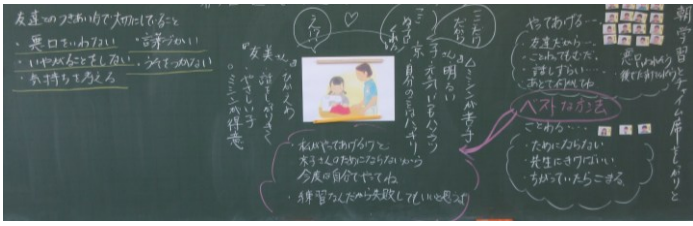
教材名・主題名・【内容項目】	
6	友達だからこそ友情を深める【B 友情、信頼】《問題を解決する
ねらい	友美さんと今日子さんの考え方の違いについて話し合うことをとおして、友達と互いに信頼し学び合って友情を深めることの大切さに気づき、よりよい人間関係を築こうとする実践意欲と態度を育てる。
	
授業エピソード	・(〇〇)さんが悪口を言わないことが大切と答えていた。 ・(〇〇)さんが嘘をつく友達との信頼を失うと答えていた。 ・(〇〇)さんが気持ち悪くすることが大切と発言していた。 ・(児童A)さんが、「あとと困りそうだから自分はやってしまう」と友達との交流で発言していた。 ・(〇〇)さんが「頼まれたことを断ると友人関係が壊れそう」と自分の素直な思いを発言していた。
生活エピソード	・(〇〇)さんが算数の答えを聞かれたときに「自分で考えてみたら」と声をかけていた。 ・(〇〇)さんが「給食当番の仕事手伝うよ」と自分から進んで声をかけていた。 ・(児童A)さんが友達にアドバイスをする際に「一回やってみたら。それでもできなかったら手伝うよ」と話をしていた。

図5 授業4時間目後に作成したエピソード記録シート

また児童A自身も、9時間目に行ったココロタイムの中で「やってといわれるとすぐやっちゃってしまっていたけれど、すぐにやってあげないでチャレンジしてもらうようにしている」と振り返りのワークシートに記述し(図6)、道徳的価値について、単なる知識としてではなく、自分自身の行動や思考と結びつけて自己の成長に気づいている様子が伺える。道徳の内容項目を大きくくりなまとまりで評価することは、児童の道徳的な成長を多角的に捉え、より深い理解を促す上で非常に有効な手段だと考えられる。

☆友達との関わりの中で、今どんなことを大切にしたいと思っていますか。

前の自分と比べて考えてみましょう。

前の自分は、友達にたいしての話し方を考えたりしなかったけど、今はしっかり考えて言っている。おとやてといわれるとすぐやっちゃってしまっていたけど、すぐにやてあげないでチャレンジしてもらうようにしている。でも女子とのかかわり方は、かえられなかった。男子としか話せない。

図6 児童Aのココロタイムのワークシート

②ココロタイムの自己評価と児童相互の見取り

8時間目は、異性の間であっても信頼し、学び合うことの大切さについて考えを深め、よりよい人間関係を築こうとする実践意欲と態度を育てることをねらいとして授業を行った。児童A

は授業後の学習感想に「男女の関係をよくしたい」と記述をし、伸ばしたい自己について見つめ道徳的実践意欲が高まっていることが伺えた。しかし、9時間目に行ったココロタイムでの振り返りでは、児童Aは「女子とのかかわり方は変えられなかった」と記述をし、道徳的価値の大切さに気づきながらもなかなか実現することができない難しさを感じている様子が伺え、児童Aは道徳的態度的について自身の行動を否定的に自己評価している。今回の授業後の児童Aの様子については教師の見取りとしてエピソード記録シートにも記述は無かったので、本人の記述からも教師の見取りからも成長の様子を正しく捉えることはできなかった。

一方で授業後に友達の頑張っているところを見ることがお互いに見つけ、友達の成長発見シートへ記録する取り組みを行っていたが、その活動の中で児童Aについて別の児童が「(女子児童)が給食をこぼしてしまったときに、児童Aが大丈夫といって声をかけ手伝っていた」と記述をしていた。(図7)児童が互いの良さを認め合う活動を行うことで、本人が自分では気が付かなかった道徳的実践力の成長を、教師が見取れなかった日常の中での児童Aの成長を友達同士の交流から深めることにつながったと思われる。

友達の成長を発見しよう！！ 協力して活動している姿素晴らしいですね！

ク ラ ス の 友 達 の よ い	・ (○○) さんが (○○) さんの給食を保健室へ自分から進んで届けていた。(記入した児童名)
	・ (○○) さんが給食をこぼしたときに (児童A) さんが「大丈夫といって」手伝ってあげていた。(記入した児童名)
	・ (○○) が困っている友達を助けてあげていた。(記入した児童名)
	・ (○○) くんがプールで25mを泳ぎきったときに (○○) くんがすごいとほめていた。(記入した児童名)
	・ (○○) さんが、下駄箱の掃除を頑張っていた。(記入した児童名)
	・ 調理実習の片付けを (○○) くんが一生懸命やっていた。(記入した児童名)

図7 児童の相互評価として活用した友達の成長発見シート

(2)2学期の実践の結果と分析から：児童Bの記述の様子をもとに

①授業前後での道徳的価値の深まり

2学期は、表2に示した通り教科書を用いて4時間の授業を行った後に、自分の成長について振り返るココロタイムを5時間目として実施した。2学期は「C主として集団や社会との関わりに関すること」の内容項目についてココロタイムで振り返りを行った。学習前後での児童の「働くことの意義について」道徳的価値の変容について考察を行った。

児童Bは、「あなたは働くときにどんなことを大切にしていますか」という問いに対し、授業前の答えとして「さぼらずに仕事をする」「ていねいにやる」「集中する」と記述をしていた。(図8)自分がどのように仕事に向き合っているかということが考えの中心であり、働くことの意義についての記述はなかった。

① あなたは、働くときにどんなことを大切にしていますか？

・さぼらずに仕事をする。
・ていねいにやる。
・集中する。

図8 授業前の児童Bの記述

4時間の授業後にココロタイムで再度「あなたは働くときにどんなことを大切にしていますか」という質問を行った。授業後の児童Bの記述を図9に示すが、「今までは楽が大変かで仕事を決めていたが。これからは人の役にたつかたないかで決めたい」と書いており、何のために働くのかという目的意識や、誰のために働くのかという他者意識が児童の道徳的価値として深まっ

ていることを見取ることができる。また、児童Bは授業前後での記述の変容について「自分の仕事をさぼらずにすることが働くことで大切だと考えていたが、今は自分が働くことでだれかの役にたっていると考えて進んで働いている」と答えるなど、道徳的価値を単に理解するだけでなく、日常生活の中で積極的に実践しようとする意欲が高まっていることがわかった。

ココロタイムの活動を行うことで、授業での道徳的価値の理解だけでなく、日常生活における自分の行動について合わせて振り返りを行う機会となり、児童は自分自身を客観的に捉え、自己理解を深めることにつながったと思われる。

② あなたは、働くときにどんなことを大切にしたいですか？

前の自分と比べて考えてみましょう。(自分の中で何が変わりましたか？)

今までは楽が大変かで仕事を決めていたけど、これから人の役にたつたこと、いかにできめたい。例えば、そうじの時に、いつもはほうきをわたりけりたけど、たまにはほうきも使う。最近、次の人が使いやすいうつに、もって仕事をていねいにやろうと思った。

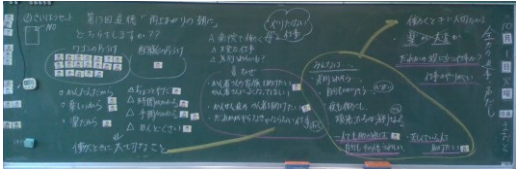
図9 授業後の児童Bの記述

(3) 友達の成長発見シートによるクラス全体の道徳的実践意欲の高まり

昨年度開発したエピソード記録シートは、授業での児童の学びと授業後の児童の生活の様子を合わせて記録をすることができるが、評価者は教師に限定されるため、全ての児童を一度に見取することは難しい。

そこで、児童が相互に友達の頑張っているところを見つける活動を加えることで、道徳的実践意欲や態度として表れている児童の成長の様子をお互いが見つけることで高めあえるようにエピソード記録シートを友達の成長発見シート(図10)として活用を行った。

友達の成長を発見しよう！



1	朝登校するとすぐに、(OO)さんが自分の席の仕事をしていた。終わると他の仕事を手伝っていてすごいと思った。(記入した児童名)
2	
3	(OO)くんが、給食当番ではないけれど、配膳皿をかたづけしていた。自分もそんなふうになりたい。(記入した児童名)
4	(OO)ちゃんが、掃除のときに廊下で靴室のすまみで掃除していた。(記入した児童名)
5	(OO)ちゃんがライン引きの当番ではないけれど、「手伝うよ」と言ってくれて、一緒に仕事をしてくれてうれしかった。
6	(OO)くんが、運動会の席の仕事を忘れずにやっていてすごい。いやいややっていないのが良い。(記入した児童名)
7	
8	(OO)くん(OO)くん(OO)くんが、運動会練習の準備を率先してやっていた。(記入した児童名)
9	(OO)くん(OO)くん(OO)くんが、体育館の準備に行っていた。(記入した児童名)
10	(OO)くんが掃除に早く行ったほうが良いよと言ってくれた。(記入した児童名)
11	(OO)くんが朝きたら大勢をはこんでいた。(記入した児童名)
12	
13	(OO)くんが青箱を並べてくれた。(記入した児童名)
14	(OO)君が自分だけのことでないけど青箱を並べさせることをすぐにやっていた。(記入した児童名)
15	(OO)ちゃんが給食で使う本紙を選んでくれた。(記入した児童名)
16	(OO)くんが外資をいれるカゴをはこんでくれた。(記入した児童名)
17	(OO)くんが自分から首を運んでくれた。(記入した児童名)
18	(OO)くん(OO)くんが太鼓などを自分から運んでくれた。(記入した児童名)
19	(OO)くんが校舎の全校練習のために早くにいて準備をしといてくれた。(記入した児童名)
20	(OO)くんが給食の片付けのときに自分からどんどんやっていたのでまねしたい。(記入した児童名)
21	社会の時間(OO)くんが、課題に向かっていてすごいと思った。(記入した児童名)
22	(OO)くん(OO)くんが給食の片付けを率先してやっていた。(記入した児童名)

図10 授業13時間目後に作成した友達の成長発見シート

友達の成長発見シートを活用した相互評価の活動について、児童の振り返りの感想を記述から分類したものを表3に示す。「友達が頑張っているところを見つけるのは楽しかった」「自分が頑張っているところをほめてもらえるのは嬉しかった」と感想に書く児童が多く、互いの良さを認め合い高め合う活動により、児童の道徳的実践意欲が高まっていると考えられる。また、「友達を見て自分も頑張ろうと思った」という記述から、友達の言動を認め励ます活動を行うことが児童にとって刺激になり、クラス全体の道徳的実践意欲の向上につながっていると考えられる。友達の成長発見シートを活用した相互評価活動を行うことにより、友達の良い点や努力を認めることで、共感する力が育まれたと思われる。さらに、友達から評価を受けることで、自分の長所や課題を客観的に捉え、自己理解を深めることができていると思われる。

しかし、「友達の良いところを見つける事は難しかった」と肯定的に友達の成長を捉えることに難しさを感じている児童や、「見つける友達が同じ人になってしまうことが多かった」「自分のことをあまり友達が書いてくれなくて悲しかった」と感想に書く児童がいるなど、相互評価の活動

を行うことが児童にとって負担となり、児童によっては活動が意欲を低下させてしまっている面もあると思われる。記述した内容を交流する機会を設けるなど、活動が児童の内発的な動機付けへつながる工夫が更に必要だと思われる。

表3 友達の成長発見シートの取り組みを行っての児童の感想 n=20
(記述の内容については複数に分類)

友達の成長発見シートの取り組みについて 児童が振り返りをした記述の分類	回答数
友達の頑張っているところを見つけるのは楽しかった	12
自分が頑張っているところをほめてもらえる事は嬉しかった	11
友達を見て自分も頑張ろうと思った	9
最初は難しかったが、友達の頑張っているところを見つけることができるようになった	6
友達の良い所を見つける事は難しかった	6
見つける友達が同じ人になってしまうことが多かった	3
自分のことをあまり友達が書いてくれなくて悲しかった	2

6. 考察および今後の課題

今回の実践における成果の1つ目は、「ココロタイム」として内容項目のまとまりで振り返りを行うことで、道徳的価値について、単なる知識としてではなく、授業後の自分自身の行動も含め、児童は自己の成長について振り返りを行うことができたことである。個々の項目に対する道徳的価値の内容理解だけでなく、他の時間の学習内容をどのように関連づけて考えを深めているかを、教師による見取り、児童自身の自己評価の両面から振り返りを行うことができた。

2つ目は、エピソード記録シートを児童間での相互評価として友達の成長発見シートを活用したことで、他者からの視点を取り入れた評価として、自己の成長を見つめ深めることができたことである。授業で学んだ道徳的価値について「知っている」という状態から、実際にその価値観に基づいた行動を日常的に行おうという道徳的実践意欲を育むことにつながったことである。

今後の課題としては、今回の実践では「ココロタイム」で取り上げた振り返りの視点は教師

側からの提案であり、内容項目についても教師が提示を行った。道徳の振り返りは、児童が自己を深く理解し、より良い人間関係を築くための重要なプロセスであると考えている。多角的な視点で振り返ることで、児童は自分の考えや行動を客観的に見つめ、成長点や改善点を発見することにつながるとと思われる。振り返りの視点を児童にどう委ね、どのように振り返りを行わせるのか今後更に方法を検証していきたい。また、内容項目によっては、道徳的価値を理解していることが、必ずしも直接的な行動や発言として日常生活の場面で表れるとは限らない。児童の内面的な変化を様々な側面から見取る方法については、さらなる手立ての工夫が必要であると考えている。

引用文献

- ・加藤宣行（2017）『子どもに寄り添う道徳の評価』光文書院
- ・文部科学省（2018）平成29年小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編
- ・文部科学省（2022）令和3年度道徳教育実施状況調査
- ・毛内嘉威（2017）児童生徒の評価と教師の指導の評価、永田繁雄（編）『「道徳科」評価の考え方・進め方』教育開発研究所、pp.50-51
- ・西野真由美（2017）学習状況の評価、永田繁雄（編）『「道徳科」評価の考え方・進め方』教育開発研究所、pp.40-41
- ・富岡栄（2015）「道徳の時間の評価に関する実践的研究-教科化に向けての取り組み-」『道徳と教育』333, pp.81-92
- ・富岡栄（2018）『道徳科授業づくりと評価の20講義』明治図書